

令和 6 年度 学校評価報告書 1 (計画段階 ・ 実施段階)

いずれかを○で囲む

学校名		福岡市立 福岡女子 高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価 (総合)	
学校長	ふりがな	おおす りゅういちろう		1 教育目標 教育基本法の精神に則り、急速に進展する国際化・情報化などの社会的変化に対応し、生涯にわたって主体的に生きるための人間力を培う。 2 めざす学校像・生徒像 【学校像】相互に認め合い高め合う温かい信頼関係の中で、安心して個々の個性や能力を最大限に発揮しチャレンジすることを通して、豊かな心と未来を生き抜く力が育まれる学校 【生徒像】自他を重んじ、生涯にわたって主体的に生きるための人間力を身につけた生徒 3 スクールポリシーに基づく取組の推進 校内での共通理解、共通実践とともに、中学校への広報や個別の説明等に努め、スクールポリシーの浸透と実現にアプローチする。	1 本校独自の特色化・魅力化の推進 各学科の在り方及び魅力化に向けた検討を深め、その具体化を図る。 【家庭科】社会の変化に対応し、衣食住、保育、介護などのヒューマンサービスに関わる生活産業のスペシャリスト育成に資する学科の在り方やカリキュラム等の検討を進める。 【国際教養科】アジアのリーダー都市に相応しい国際感覚に富む人物の輩出をめざし、帰国生徒の受け入れや姉妹校交流、海外語学研修などを通して、グローバル社会で活躍できるスペシャリスト育成に資する学科の在り方やカリキュラム等の検討を進める。 【普通科】急速に進展する国際社会・情報化社会などの社会の変化に伴って変容する生徒の進路希望に対応していくため、看護進学コース及び普通コースの充実を図るとともにその在り方やカリキュラム等の検討を進める。 2 キャリア教育の充実と男女共同参画社会で活躍できる人物の育成 ・キャリア教育融合型総合的な探究の時間の充実 3 人権教育の推進 ・組織のないじめの未然防止 ・互いの人権を尊重し合う学校づくり	学校自己評価	学校関係者評価		
	氏名	大洲 隆一郎							
校長本校在任年数	3年								
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	あんの まさとし							
	氏名	阿武 正俊							

昨年度の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の校内研修による指導と評価の一体化に向けた授業改善と授業力向上の取組を推進してきたが、全学年での実施をうけさらに研修に取り組んでいく。 ・各学科の専門的な学びや多様な進路実現をめざすため生徒の実態を踏まえつつ、主体的な学びが実現できる地域との連携プログラム等を活用したカリキュラムの見直し、検討を行う。
-----------	--

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的な方策					
教育課程・学習指導	ICTを活用した学習指導・観点別評価の一体化に向けた授業改善と校務の効率化の推進	職員間の情報共有におけるICTの活用や、校務支援システム・自動採点システム等の活用することにより校務の効率化を推進する。 ICTの活用に関する研修や授業研究研修などの充実を図り、指導と評価の一体化による授業改善を推進する。					
	新学習指導要領にもとづくカリキュラムマネジメントの実施と観点別評価の円滑な運用	定期的に教科ごとに考査等の評価をもとにした検討を行い、カリキュラムマネジメントを実施する。 観点別評価の研究を教科ごとに行うとともに、校内研修などにおいて情報共有を行い運用する。					
生徒指導・人権教育	いじめ・不登校・中途転退学等の諸課題に対する組織的対応の充実	保護者、学校外の諸機関等との連携を積極的に行い、生徒支援につなげる。 SCやSSW、通級指導教員等との連携を強化するとともに、円滑な情報共有を行う校内生徒支援体制の更なる充実を図る。 いじめの未然防止のための研修を充実させるとともに、各学期のアンケート等により情報を収集し、早期対応に努める。					
	豊かな人権感覚の醸成と一人ひとりを大切にす学校づくり	質の高い特設授業をめざし、生徒の実態に合わせたものとなるよう教材や講話を研究し、充実した授業への取組を事前研修等を通じて全職員で推進していく。 現代における人権課題やアンケート等により把握した生徒の課題を取り入れた特設授業を実施するとともに、人権意識の向上を図る指導を適宜行う。					
進路指導	生徒の進路実現への意欲と意識を高める系統的・発展的なキャリア教育の推進	ガイダンスなど進路に関する行事を学年と連携して行うとともに、生徒の状況の把握のために面談の実施し、進路希望の実現を図る。 進路実現に主体的に取り組む意識の涵養を図るために、キャリアパスポート（プログレスノート）の見直しを行う。					
	生徒の進路実現に向けた進路指導体制の充実	生徒の情報や進路に関する情報の共有を各担任と行うなど進路指導の充実を図る体制を構築する。 デジタル求人票の活用や進路の手引きの配信など進路情報のより効果的な提供方法を講じる。					
魅力ある高校教育の推進	生徒の主体性を育む教育活動の推進	課題研究や総合的な探究の時間などにおいて、地域・企業・行政等地域と連携した教育活動の更なる充実を図る。 委員会活動の活性化、生徒会および各クラスの実行委員による学校行事等の取組の充実を図る。 校則の見直しにおいて、生徒が意義を理解し守ろうとする校則をめざし生徒と教員とが意見交換などをよりよい組織づくりを推進する。					
	教育活動の魅力と特色を効果的に情報発信する広報活動の実施	本校の魅力や地域や保護者等に広く伝えるため、SNS等のコンテンツを工夫し情報発信の充実を図る。 学校訪問、体験入学等を通じた中学生および保護者等への情報発信の更なる充実を図る。					

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度,B…目標を上回る達成度,C…目標どおりの達成度,D…目標を下回る達成度,E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。